會誌

第十九號

研究

ペスタロッチの生涯

專攻科二年　野呂美喜

「此處に父ハインリッヒ、ペスタロッチ永眠す。千七百四十六年一月十二日チューリッヒに生れ千八百二十七年二月十七日ブルーグに終す、ノイホーフに於ては貧民の救濟者たり、リーンハルトとゲルトルートに於ては國民の訓敎者たり、スタンツに於ては孤兒の父たり。ブルグドルフ及びミュヘンブフゼーに於ては新國民學校の建設者たり。イフエルテンに於ては人類の敎育者たり。眞の人間眞のキリスト敎徒眞の國民にして、凡てを他の爲になし一も自らのためにする事なし。彼の名に譽あれ。」

瑞西ノイホーフの近村ビルの丘上にある小學校に今も殘る碑文にかう記されてある。何といふ力強い美しい文であらう。この美しく力強くそして破虐に滿ちた碑文を捧げられたペスタロッチこはどんな人物であらうか。ペスタロッチは終生一個の貧民として埋れた人であつた。然し彼は同時に貧民の味方であり救濟者であり、又孤兒の父であつた。彼は又事業の失敗者でもあつた。彼の計畫し着手した事業は總て失敗に歸した。然し彼は國民の訓敎者であり、人類の敎育者であつた。彼は貧に生れ貧者に死した。然し彼の心は聖く裕であり、その行は總て他への奉仕であり、一も自己の爲になさなかつた。彼は愛と熱の人であつた。事業の企畫に對する綿綴なる理知の光に乏しく、部下統御や世間的の游泳

の術に拙なりしとはいへ、彼の胸には温い人類愛が常に充されてあり、金石を砕す熱情が蓮つてゐた。實に教育の根本義は茲へることではなくてそれは愛である。熱である。この熱、この愛の迸りは時に彼をして社會運動家たらしめ、時に農民救濟者たらしめ、貧兒の味方たらしめ、小學校教員たらしめ、著述家たらしめた。彼の生涯は其地位に於て常に社會の下層を低迷してゐた。殆ど暗黒にも等しい不運に滿されたが其熾烈なる人間愛は後世幾百億の人々に深い感銘を與へ強い尊敬を禁ぜざらしめてゐる。十八世紀前半に於て歐洲は思想史上の三偉人を生んだ。獨逸に哲學者カント生れ佛國西に社會思想家ルソー出で、瑞西に教育思想家ペスタロッチが出た。風雲歐洲の天地を蓋ひ戰亂革命相ついで起つた當時に出た三人は夫々獨自の世界に生きて、人類史上に千載の光明を與れた。

清く樂しく貧しい家　愛の使徒ヨハン、ハインリッヒ、ペスタロッチは千七百四十六年一月十二日スヰスのチューリッヒ市に生れた。瑞西の北方連山に遠く圍まれてチューリッヒ湖がある。山の麗、水の美を集めた湖から流れ出るリマット河畔にあるのがチューリッヒ市である。マルチンルーテルやツウキングリー等に依つて叫ばれた十六世紀の宗教改革は燎原の火の様に歐洲の天地に燃え擴がり各地に新教徒と舊教徒とは血の雨を降らしたが伊太利は舊教の中樞地、ローマ法王廳のあるところで新教徒に對する壓迫は特に劇しかつた。ペスタロッチの父ヨハンバプチストはこの壓迫を逃れて伊太利からチューリッヒに居を遷したアントニオ、ペスタロッチと言ふ新教徒の後裔であつた。母はスザンナと言つて湖畔の名門ホッホ家に生れた。貧しく、然も清く樂しい家とは正に彼等の家庭であつた。性來、寡慾、清廉なそして愛情、仁慈の念深いバプチストも敬虔温和な、しかも志操の高いスザンナも密財に意を用ゐなかつたから一家は常に貧しかつた。しかし物質の豊裕無くとも愛情の寫鬱だつたこの家は、心の幸に滿されてゐた。ペスタロッチの六歳の年前途尚春秋に富むバプチストの死に遭つた。貧の中に三人の幼兒を抱いて殘されたスザンナは全く途方にくれたが、深い愛と理知を以て凡ての苦と闘ひ子供の養育に專心したことは後年ペスタロッチの「白鳥の歌」に於ける母の追憶に深い感激を以て綴られてある。又スザンナを助けて三十幾年一家の爲に全く獻身的な生涯を終へた下婢バベリのペスタロッチに與へた精神的な偉大な感化も彼の述懐の所々に見えてゐる。幼い時より父母の愛を味はず、神聖な家庭の養護を受けなかつたルソーが家庭の價値を認めることの少いに反し、その全生涯を貫く基調は愛であり、家庭に於ける母の位置を尊重し、家庭の教育的價値を稱揚したペスタロッチが愛に滿ちた家庭に育てられたのを見ても家庭に於て受けた幼時の第一印象が如何にその全人格に大きな影響を及ぼすか實に考ふべき事である。

小學校時代。青年時代　彼はチューリッヒの小學校に入つた。概して想像的の學科を好み機械的に模倣し記憶する學科を嫌つた彼は均等の成績を得ず全体的には劣等の方であつた。千七百五十四年ラテン語學校に入學したがこゝでも好成績を擧げ得なかつた。千七百五十七年文科專門學校に入學して二年の課程を終へ、更にこれと連絡ある高等專門學校に入つた。小學校時代の劣等兒も專門の學術を修めて漸くその俊秀を表し始めた。大學に入學當時は神學を修めてゐたが、傍ら社會問題に興味をもつ、貧民問題。農民問題に對して理論的。實際的の研究を續けた。彼は最初の說教が訥辯の爲失敗した事より、牧師として立つ事の自己に不適當な事を痛感し、その上彼の社會問題研究は次第に彼の思想をして、人の魂の救濟より肉身の救濟へ、未來の救より現世の救に向はしめ、遂に神學を拋つて法學を專攻し始めた。當時チューリッヒ大學にボドメルと言ひ歷史及法律學。政治學專攻の敎授が居りその熱烈なる愛國心に依つて多くの學生に尊敬されてゐたが、ペスタロッチも深くその感化をうけ同敎授の組織せるスヰス協會に入り協會員として論議や實際行動の上に果敢な行動意見を示すに至つた。元來スヰス協會は農民の保護を目的とし、共和的思想を帶びてゐる上ペスタロッチは深くルソーの思想に共鳴し、ルソーが專制政治を攻擊し、宗敎思想に反した事より政府から閒罪され著書「エミール」及「社會契約論」が發賣を禁止された事より屢々官憲と衝突し閒罪院禁のうき目を見た。自國の荒廢民衆の疾苦を見た感激の青年ペスタロッチがルソーの思想に洗禮せられた事は當然であつた。しかし親友の死や可なり激しく害はれた健康、加へてエミールに依つて常々人爲を離れ自然の生を樂しまうと覺つてゐた衷心の要求が、今更彼の心を刺戟したので飄然として一介の農夫たらんと決した。時に彼は二十三歲であつた。

ノイホーフに於けるペスタロッチ　一度農村に入つた彼は全く書物を捨て、農業に没頭し、健康も次第に回復して来た。千七百六十九年九月三十日彼はアンナと言ふ婦人と結婚した。四十六年間彼と苦楽を偕にし彼を真に理解しその協働者となり慰安者となり激勵者となつたアンナこそ世に稀な賢夫人である。ペスタロッチの偉業はアンナの力なくしては成されなかつたと言つても過言でない。千七百七十一年彼等はビルフエルドに、新築した家に移りこゝを彼自ら「ノイホーフ」と呼んだ。二人には一子ヤコブが恵まれ人間的な幸福に浸る事が出來たのも束の間、彼の農業は失敗に帰し熟考の末試みた紡績事業にも破れた。彼にこの大失敗がなければ、或は失敗に對してなほ自己を内省しなかつたならば、人類史上にペスタロッチの名なく彼は無名の農民としてチューリッヒの土に帰したであらうに……。一子ヤコブは父母の苦も知らずに成長して行く。ペスタロッチは深くヤコブを愛した。そして子供に對する愛は子供の理解となり理解は興味を生んだ。そしてこれより児童の教育を思はせるに至つたのは當然である。更に彼の胸に青年愛國團の一員として活躍した頃の社會改良。貧民救濟の思想と熱とが甦つて来た。世俗的な幸福を念じて働いた過去の淺薄な念慮は雲霧の如く四散した。人類の使命は凡て他への奉仕の外何物でもない。彪大な人類の團体は日に動き時に移る。そして瞬間瞬間の動きの總体が過去の總体と合して永遠の究極へ流れて行く。その瞬間瞬間動き移る人類活動の總体をしてよりよからしめ、より充實せしめるものは各人の總体への奉仕である。彼は深い信念をもつて奉仕の門出についたのであつた。時に千七百七十四年の冬であつた彼は自分の家を校舎にあて附近の村落から貧民や無頼漢の子を狩り集め、自らのパンや衣服を分つて貧児教育の實域に踏み入つた。貧しい者に物質的救濟を行つてもそれを使用したら再び元の貧民に帰る。彼等を眞に救ふには「人たる自覺」を與へねばならない。人間たるの自重心を植ゑねばならない。特に幼時にこの深い信念を植ゑねばならない。こは彼の貧民救濟の理想であり、從つて貧児教育もこれを元として計畫された。そしてペスタロッチの熱と愛アンナの涙ぐましい助力に彼の事業に曙光が見えて来た。しかしそれも束の間で児童の急激の増加にペスタロッチの熱と力を凡ゆる生徒に及ぼしかね、監視も行届かず、折角改善に向つた者まで撚を戻し、衣類

を給せられると直に逃げ出す者が續出し、加へて資力の缺乏は遂に閉鎖のやむなきに至つた。時に千七百八十年であつた。

著作時代　試練にしてはあまりにも激しい試練である。爲す事試みる事悉く失敗。剩へ世人の嘲笑。さすがの彼も可なり悶えた。併し友人等の激勵に彼は著作に依つて教育思想を一般に知らせようと試みた。千七百八十年「隱者の夕暮」を書き更に翌年不朽の名著「リーンハルドとゲルトルード」を公にした。この書は下層人民の生活思想を巧に書き、自然の關係より善良な國民的陶冶を進め、以て下民の幸福を增進する事を目的としたものである。更にその後「クリストフとエルツエ」や「人間種族發展の自然の道に關する考察」等を公にした。この間アンナ夫人の病、母スザンナ忠肆バベリ、一子ヤコブ等の死等家庭的にも不幸が相ついだ。そして彼は虚名のみ贏ち得る著作を捨て、眼視を洗つて再び靜な農夫生活に入る夢を廻らしはじめた。然し偶々革命起り彼は新政府に招ぜられて「瑞西國民新報」の主筆に擧げられたがやがてこれは廢刊になつた。そこで彼は宿志である貧に盡く人々の教化、ノイホーフで破れた貧児教育の再興を女部大臣スタップフィルに請願し、遂に容れられ、政府は内亂に町を燒かれたスタンツに百四十人の孤児が路頭に迷つてゐるのを集めて孤児園を設けペスタロッチは院長に招かれた。

スタンツの生活　落魄寂寞の十八年は彼にとつて實に苦しい孤獨の感をあたへ、うら寂しい人生の冬籠であつたがスタンツの生活に彼の心にも春が甦つて来た。「私達は共に泣いた。又共に笑つた。子供等は世界もスタンツも忘れて私と共にある事のみを知り私も子供達ある事のみを知り他を忘れてゐた。」と彼を言はせた當時の生活。經濟的の窮迫の中に衣食住から兒童の教化に至るまで正に神の様な愛を以てなされた。然しこの樂園も六ケ月目に突然伊國と開戰した佛軍の野戰病院に指定されて閉鎖を命ぜられた。六ケ月とは言へ魂と魂と相ふれ合つて暮した兒童が天涯の安息所を奪はれたその行末を思ふ時、五十三歳のペスタロッチの胸は潰れるばかりの苦しさであつた。スタンツを出で病む心と体を抱いた彼は暫く轉地してゐたが彼の胸から兒童の影を追ふ事は出來なかつた。

ブルグドルフに於ける小學校教育　彼は再び小學校教師の職を求め、やうやくブルグドルフの一小學校教師の席が與へられた。しかし教科書暗記本位以外に教育はないと思つてゐた蔦弊で無教養な校長は彼の教授法を理解せず、遂に彼は彼免せらるゝに至つた。しかし知事の理解により再び他の小學校に採用されこゝで漸く彼の教授法は認められた更に文部大臣の盡力により彼の爲に私立學校が設立され幾度か愛の爲にやぶれ、愛の爲に泣いた老いたペスタロッチは勇躍して學校の組織にかゝつた。彼の主義に共鳴した若い教育者が次第に彼の傘下に集つて來た。教師等が一体となつて愛の大廈の下に新教授法を行ひ得る喜びは如何ばかりであつたか。有名な教育學者が歐洲各地から參觀に來た。ヘルバルド等もその一人であつた。ブルグドルフの學校は或事情の爲ミューヘンブフゼーに移つた。こゝでも依然として學校は盛況を維持せられたが、やがて學校の事務を執る友人と不和を生じ偶々イフエルテンに招せられたのを機にこゝを去つた。

イフエルテンに於けるペスタロツチ　彼がミューヘンブフゼを去つてイフエルテンに移ると彼を慕ふ教師や生徒等も集り學校は以前にも增して盛況であつた。恐らく彼の最も自心の生活はスタンツの六ケ月とイフエルテンの前半の生活であつたであらう。瑞西各聯邦は次第に彼を認め更に諸外國も彼の教授法を研究し始め彼としては全く積年の勞苦が報いられた月日を送つた。諸外國の帝王、大臣、知名の政治家を始めとし教育學者、實際家が多數參觀し、又彼が露國皇帝アレキサンダー二世に教育改革を說いたのも此時代である。イフエルテンの生活は千八百五年から二十五年まで二十一年續いた。その間彼は夫人と共に學校の一室に起居し生徒に家庭的訓育を施した。睡眠も休憩食事も課業も祈りも凡て生徒と共にしたのであつた。愛する兒童の病む時は徹宵して看護し、生徒の增加につれてベットの不足の時は彼の床を與へて彼は教室の腰掛によつて假寢したのみであつた。朝まだき霧深い校庭に立つて夢間かに眠る兒童の群を眺め心からほゝゑみ又衷心から湧き出る幸に涙する彼。しかし榮えるものは衰へる時が來る。さしも歐洲の教育界に多大の衝動と驚異を與へたイフエルテンの學校も教員間の軋轢や反對派の非難の爲漸次その光を失ひ、生徒の增加と共に彼

の主義も不徹底を見、良教師も袂を連ねて退職するに至つたので再びペスタロッチに淋しい生活が訪れた。

千八百十五年十二月十二日彼は彼を最も敬愛し、四十年の久しい間彼を助け勵ましたアンナ夫人の逝去に遭つた。千八百二十五年二月二日生涯中最も思出深いイフエルテンを去り老いた熱と愛の教育家は孤影悄然、再びノイホーフに歸つた。彼は死の瞬間まで教育事業を忘れる事が出來ずノイホーフに於て更に貧兒學校の設立を計畫し、又「白鳥の歌」や「余が生涯の經驗」等著書を公にした。

淋しき愛の使徒の眠り　千八百二十七年二月十七日嘆々たる白雪は瑞西の山野を埋め滿目凄愴の光景を呈せる夕暮教育の神父ペスタロッチは老齡八十二歳を以て其苦難に富む奉仕の生涯の幕を閉ぢた。世界の教育史上に力ある頁を記し、歐米の教育界を震撼せしめた一世の教育家もその臨終は極めて淋しく、只肉親、孫夫妻の手向けの水を受けたに過ぎなかつた。人は棺を覆うて始めて其眞價を定められる。誠に人の事業に對する正しい審判は後世の人々によつて始めて下される。感激に燃え、熱烈な理想に憧がれる彼が祖國の荒廢を救ひ、人類愛の炬火を翳し「ノイホーフに於ては貧民の救助者となり、スタンツに於ては孤兒の父となり、ブルグドルフに於ては國民學校の建設者となり、イフエルテンに於ては人類の教育者となり、悉く他の爲になして一も己れの爲に爲すことなき」その一生を貫いて果して何を以て報いられたであらうか。尊き彼の獻身の行爲に對して又其の愛と眞理の精神に充ち滿ちた犧牲の一生に對して彼が當時の人々より何の報いられるところがあつたか。彼の生涯に羨むべき幸の訪れはなく誤解と反對と嘲笑と非難紛擾との間にその生命を終へた。がしかしその不朽の名と光輝ある人道上の偉業とは永久の榮光で心貧しい人々の暗憺の胸懷を燈すであらう。